

小松市教育目標（学びの道しるべ）

理念

～智仁勇 あすのこまつを創る人～

目標

生涯にわたり みずから学ぶ人
思いやりある 心豊かな人
すこやかで 活力あふれる人
ふるさとを愛し 世界にはばたく人

2019年度 学校経営計画及び学校評価計画書

小松市立木場小学校

学校長 山本 秀徳

1 経営理念

生きる力を育むという理念のもと、知・徳・体のバランスのとれた豊かな人間性を養い、自ら考え主体的に行動できる、心身ともに健康な児童の姿をめざし、保護者や地域に信頼される学校づくりを行う。

2 教育目標

豊かな心と確かな学力を備えた、心身ともにたくましい児童を育成する。

3 中・長期経営目標

(1) 学校の現状と課題

- ①素直で真面目に取り組む児童が多いが、自ら進んで行うことが少ないため、自己有用感を育み主体性を向上させることが重要である。
- ②学年間や個人間での学力差、家庭教育力の差が大きく、特に文章読解力、思考力、表現力に課題がある。
- ③恵まれた自然環境の中、環境教育や地域と連携した活動に取り組んでいるが、児童の主体的活動の視点から内容や教育課程の改善を図っていく必要がある。

(2) 目指す成果

- ①明るく礼儀正しい態度で、意欲を持って主体的に取り組むことができる児童の育成
- ②子どもが存在感を自覚できる学級経営、知的好奇心を高め主体的な学びに向かう授業づくりに向けた組織的な取り組み
- ③児童の主体的活動を支援する家庭・地域の連携

(3) 教育成果を高める教職員組織のあり方

- ①各担当が目標達成に責任を持つとともに、組織的かつ協働的に教育目標の実現を図る。
- ②改善の意識を持ち、研修を充実させ、組織的に授業研究を推進する。
- ③広く深い教材研究を基盤とした十分な授業準備、個を大切にしたいきめ細かな学級経営を通して、児童や保護者の信頼を得る。
- ④家庭や地域との連携を深め、教育活動を発信することで、地域と共に生きる学校づくりに貢献する。

4 目標達成のための具体的な手立て

①主体的な態度の育成（重点目標）

- ・全教育活動において、児童の主体性を育むよう取り組みを工夫し、待つ姿勢を大切にする。
- ・縦割り活動や異学年交流等を実践し、互いに認め合うことを通して、自己有用感を高める。

②豊かな人間性の育成

- ・思いやりと規則の尊重を道徳の重点とし、全教育活動を通して豊かな心を育てる。
- ・児童会活動や地域と連携して、あいさつや言葉づかひの向上をめざす。
- ・縦割り活動、ソーシャルスキルトレーニングを充実させ、個を大切にする温かな集団作りをさらに進める。

③確かな学力の育成

- ・学習規律や学習習慣を身につけさせ、組織的な学習基盤づくりに努める。【学 8】
- ・当該学年の知識・技能を確実に定着させ、主体的・対話的に学ぶ本校の授業スタイルを充実する。【学 2】
- ・家庭学習の質・量の充実、家庭におけるメディアルールの徹底を図る。【学 9】

④ 健やかな体の育成

- ・早寝早起き朝ごはんを実践し、規則的な生活を身につけさせる。
- ・自己の体力や特徴を知り、進んで運動できるよう、系統的な体育指導を充実する。
- ・健康・安全についての学習を充実させ、自己管理につながる健康づくりの習慣化を図る。

⑤ 家庭・地域との連携

- ・豊かな自然・環境に学び、ふるさと学習を推進すると同時に地域と連携協力して児童を育てる。【学 12】